

2019年2月24日

第7回 ACP ファシリテーター養成研修

【修了者】

大府東浦近郊

1) 加藤 明

セイムズ大府半月薬局 薬剤師

名古屋

2) 大河内 章三

支援センターミナミ 介護支援専門員

県外

3) 石田 裕恵

津中部西地域包括支援センター（三重） 看護師

4) 南部 好宏

津中部西地域包括支援センター（三重） 介護支援専門員

5) 岡田 正子

いしが在宅ケアクリニック（三重） 介護支援専門員

6) 中道 尚美

桑名医師会（三重） 介護支援専門員

7) 相良 辰夫

岡谷市民病院（長野） ソーシャルワーカー

8) 床井 紀子（2回目のご参加）

居宅介護支援事業所 フィオーレ久里浜 あかり（神奈川） 介護支援専門員

9) 伊藤 昌美

SOMPO ケア株式会社（神奈川） 対人援助職

10) 橘 美奈子

大阪府済生会泉尾病院（大阪） 看護師

11) 佐藤 美幸

北海道総合在宅ケア事業団（北海道） 看護師

12) 日浦 教和

香川県立白鳥病院（香川） 医師

13) 早川 未来

街の医務室チーム 株式会社 Machiim

14) 青木 宥裕子（2回目のご参加）

もみのき居宅介護支援事業所（広島） 介護支援専門員

15) 油野 初音（2回目のご参加）

広島市古田地域包括支援センター（広島）介護支援専門員

16) 松浦 将浩

広島医師会運営安芸市民病院（広島）医師

【ファシリテーター】

1) 大城京子

居宅介護事業支援所レモンの樹大府 介護支援専門員

2) 米本可奈

住宅型有料老人ホーム 介護福祉士

3) 花岡雅子

北信総合病院 JA長野厚生連（長野） 看護師

4) 溪村 大輔

知多小嶋地域連携室長 看護師

5) 西川満則

国立長寿医療研究センター 緩和ケア診療部 医師

【参加者意見】

・ 侵襲的でないコミュニケーションで、結論を出していくことの難しさを、再認識しました。コミュニケーションのトレーニングをした上でも、自分が相談者をやったとき、かなり侵襲的な印象だったと言われたやりとりがあり、援助的コミュニケーションは、ただ反復沈黙をするだけではないということ、結論を出すことに意識がいくと、その基本すら抜けがちということに気づかされました。

・ 2回目の参加者としての感想です。同じテーマを、違う講師の方から教わることで、より腑に落ちたり、違う視点から見ることができました。伝えるということも多くの学びがありました。おかげ様で大変勉強になりました。

・ 専門職だけではなく、すべての方が、ACP を知り、話し合い、共有することが当たり前になる日が来て欲しいと思いました。

・ 私なりに ACP の伝え方をカスタマイズして、専門職以外の方々に、健康教室などでお伝えしていきたいと思いました。

・ 講師の皆様が、飛ばしてくださった、タンポポの種を、私も大切に育てていきたいと思えます。

・ ACP では、ファシリテーターと多職種連携が必要である事を再認識致しました。多職種それぞれの、立ち位置、考え方、傾向の違いを、理解しているファシリテーターが居なければ、合意形成までの道筋を示すことが出来ないと感じました。

・ ファシリテーターには、多職種についての理解、ACP への基本理解と丁寧な関り、情報整理後の記録等、専門職とは違う役割 が求められるように感じました。

- 専門職の視点と共に、専門職領域における ACP の視点を持ちつつ、情報を得ていく姿勢が求められていると思いました。
- 今回の研修を一人でも多くの方に受けて頂き、専門職それぞれが、スペシャル・ゼネラル、それぞれの力を持って関りをつくる必要がある事を再認識致しました。
- 誰もが知っている、分かっているはずのことを、言語化して、引き出していくことがとても大変な作業であること改めて感じました。死期が迫っている、病状が進行していく等の避けられない現実を直視して、その中で限られた資源を活用するには本人の意向や家族の判断が重要になってきますが、答えを出すには時間と労力が必要になると思います。そのため、手法を学ぶ機会を得られ、とても良い研修でした。再度研修に参加させていただきたいです。
- ACP のロールプレイで難しさを感じたのが「感情への対応」でした。感情への対応を適切に行うことで質の高いコミュニケーションへと繋がっていくと思っても、実際はその場の感情対応に必死でした。
- 「キーパーソン」と「代弁者」の違いを理解できました。